

# 日工販ニュースVol.19 No.3



もくじ

巻頭言「信頼と感動のブランドをつくりたい」	日工販理事 宮脇隆一郎	2
話題の技術「環境対応型省スペースNC旋盤USLシリーズの開発」	高松機械工業(株) 磯部 稔	4
リレー随筆 Part 2 「温暖化、兼六園も雪がない」	津田駒工業(株) 寺西 孝之	7
業界よもやま「日本経済の現状と課題」「2006年日工会受注・販売実績」 「2006年工作機械機種別輸入通関実績」		8
私の読書評「天才社員の育て方」	(株)セイロジャパン 大嶋 秀幸	16
お知らせ「第38回通常総会のご案内」		17
議事録「西部・新春時局講演会」		18
SE教育「合格者」		20
工作機械と私「三河から世界へ」	ユアサ商事(株) 渡辺 正志	21
統計資料「FA流通動態調査1」「工作機械業種別受注額」「マシニングセンタ・NC旋盤動向」 「工作機械受注高月別推移」		22
甘口辛口「コンプライアンスと企業風土」	UFJセントラルリース(株) 岡本 直人	26
消息・行事		27
会員会社		28

## 信頼と感動のブランドをつくりたい



日工販理事

宮脇 隆一郎

(宮脇機械プラント㈱取締役社長)

バブル経済がはじけて今年ではや16年。GNPの「いざなぎ超え」から始まり工作機械受注の「年間総額バブル期超え」やら「対前年同月比増60ヵ月連続」など久しぶりの好調にメディアの相変わらずの騒ぎが続きました。

しかし、われわれ日工販正会員わけても当社のようなローカル会員は、「受注総額のバブル期超え」よりも、内需受注額が16年前のバブル後の最高になった昨2006年でさえピーク時の70%程度にしかならなかったことに製造業のグローバル化の凄さをあらためて認識するとともに、内需の減少が今後の工作機械の国内販売に及ぼすだろう影響に深い関心を持つ次第です。

業界の販売秩序はバブルが崩壊した後の不況の長期化で一時は乱れに乱れましたが、その間の適者生存競争と近年の活況のお陰で最近はそれなりの小康を保っているようです。しかし時には一部の需要家の価格値引き要求に便乗して、「売ってなんぼ」の台数稼ぎに走るところがあるとのうわさを聞くことがあり残念に思います。

ここ数年は活力を取り戻した地域市場ですが、需要家の設備投資の意欲が二極分化する傾向が鮮明になり、過去のようにいっせいに設備競争が始まることはなくなりました。ただ注目すべきことは、グローバル化と二極分化によって国内市場の絶対規模が縮小した上、活力のある需要家のニーズのレベルがさらに高度化し厳しくなってきたことです。



我々ローカルの機械専門商社は工作機械の販売に係わる多様な流通チャンネルの中で、顧客の目で見えた業務品質の差別化づくりに真剣に取り組んできました。ここに来て国内市場の変化が、顧客から専門商社が工作機械を販売する「要の担い手」であると改めて認知され、「確かな役割を果たすこと」を期待されるチャンスを作ってくれたことに私は大いに注目し緊張を感じています。

幸いなことに当社は昨年7月に創立40周年を迎えることが出来ました。気の長い話ですが来る50周年には「業務品質日本一の機械専門商社」として、顧客に信頼と感動のサービスを確実に提供できる会社になろうと全員で誓いあいました。

「信頼と感動のサービス」とは、顧客が専門商社の当社に期待されるごくアタリマエのサービスを、ごくアタリマエに確実に着実に提供して「これは本物だ」と感動して頂くことです。

しかも一度完成したサービスでも顧客ニーズや社会情勢の変化に合わせて常に改革を加えつづけなければなりません。目先の問題ではなく長い時間軸での努力が必要です。

先日の西部地区委員会主催の講演会で、松下 滋講師は景気変動60年サイクルの視点で見れば、2005年を転換点として変革のエネルギーがイノベーションのうねりを起こし、新たな上昇期へ動き始めたと話されました。

いみじくも今年の干支は丁亥(ひのと・い)。これまでの陽気がピークを迎え(丁)植物が実となってエネルギーを凝縮、蓄積する(亥)のだそうで、今年はこの意味で次のステージに向けた「新たな改革の種を蒔く年」になるそうです。

日本の工作機械メーカーが世界需要の3割以上をカバーする実力をつけた今、国内の販売業界は今こそ世界に冠たる工作機械先進国らしい販売モデルを作り上げるべきでしょう。

日工販会員は改めてその範を示すべく「売ってなんぼ」のノミの時間軸の要求に応じることなく長い時間軸のテーマを見据えて、機械専門商社としてあるべきことに少しでも近づく愚直な努力を続けて行きたいものです。

# 分かりやすい話題の技術

## No.97

### 環境対応型省スペースNC旋盤 USLシリーズの開発



高松機械工業株式会社  
技術部部長  
磯部 稔

2007年に入って日本各地には雪が降らず暖冬となり石川県でも竜巻などこれまで経験したことのない異常気象が発生しています。全世界がいつこの地球温暖化の危機的状況を真剣に考えて力を合わせて行動する日が来るのでしょうか。弊社はISO14001を取得した2000年頃に「環境にやさしい工作機械」を開発しようと環境適合設計に着手しました。その頃は、開発目標設定をする段階で具体的な環境に対する良否判断をする基準・データがなかったこと。社内に基準にすべき基礎データもなかったこと。どのような測定機器で測ればよいのか。などの全ての評価方法の検討を行い、解決する必要がありました。それから6年が経過した今日自動車部品、家電部品、医療機器部品をはじめとして、多くの加工部品の小型化、高精度化が急速に進んでいますが、これらを加工するための工作機械のほとんどが旧来通りの大きさです。そのため、市場からは工場のスペース効率向上を目的とした「機械の小型化」、それに伴う「省エネルギー化」、「省資源化」に対する要求がますます強くなっており従来機と同じサイズの部品加工が可能で、かつワークの搬入出、計測フィードバックなどのあらゆる自動

化への対応も可能な省スペース型NC旋盤のニーズが高まってきています。

弊社ではこのような要望に応え、製品本体に自社開発した自動化装置(搬送ローダ・計測装置・洗浄装置)等を付加し、その上に生産システム、生産技術をも同時に販売提供させていただいています。そして更に一貫した生産体制によるトータルサポートを提供させていただいております。

本稿では、上記仕様を満足するクシ型タイプの省スペース・省エネルギー・高精度ビルトインモータ主軸搭載のUSL-480の特長と環境対応例の一部を紹介させていただきます。USLとは、Ultra Slim Latheの略で480は機械幅です。

「NC旋盤USL-480の特長」(写真1)  
小型・省スペース化(写真2-、)

標準ツール設定4本として、加工の幅を持たせ、X軸ストロークは160mmを実現しながら機械幅480mmという省スペース化をはかっています。2台連結仕様で比較した場合、従来機のX-100 2台連結仕様でライン長さ6mが、USL-480では3.1mとなり1ライン当りの全長が従来機の約50%減となっています。フロアスペー

ス比較では約40%減となるため工場のスペース効率向上につながります。

高精度化(写真3、図1)

X軸、Z軸をそれぞれ独立配置することでスライド面から主軸中心までの距離が近いクシ型とし、「主軸移動型3次元ゼロ芯構造」を採用することで各軸方向熱変位を最小に抑えられるため加工精度が非常に安定しています。主軸はビルトインモータを採用することで加工精度は真円度: 0.2 μm、面粗度: 0.2 μmを実現しています。

サイクルタイム短縮(写真4)

主軸の慣性モーメントの最適化と専用ビルトインモータの最適設計により、主軸の加減速時間



写真3. X軸、Y軸配置

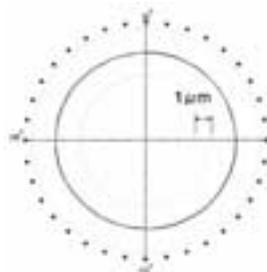


図1. 真円度0.21 μm(1000rpm)



写真1. USL-480(搬送装置付)



写真2- . 弊社6インチタイプ X-100(2台連結仕様)



写真2- . USL-480(2台連結仕様)



写真4. 搬送ローダ

を大幅に短縮しています。能力は十分確保して小型化した主軸の最高回転速度への到達時間の削減効果とあわせて、非切削時間が減少することから、製品1個あたりの生産時間も短縮できます。0 10,000min<sup>-1</sup>の到達時間は1sec以下を実現(ダイヤフラム精密エアチャック装着時)しています。弊社設計の高速コンパクトローダーを機上スペースに搭載することで搬送スペースの有効利用と非切削時間の短縮を実現しています。特に、部品の搬入出を自動化した仕様では、搬送に必要な距離がその分小さくなります。既存のタ

イブに対してローディング時間は、4secで20～50%減となり最短サイクル時間は、10secです。ワーク加工時間も10sec以下を想定した仕様になっています。工程間のワーク移動距離においても約1000mm以上必要だったものが500mm以下に半減しています。ローディング高さも半分以下になっています。自動化においては、弊社の実績でサイクルタイム40sec以下の加工ワークが全体の50%以上を占めています。この1サイクルの内訳は、平均着脱時間32%非切削時間30% 切削時間38%となり加工以外の割合が62%と非常に高く「搬送距離の短縮＝小型化」がサイクルタイム短縮の鍵となっています。

省エネルギー化・環境対応例(図2、3)

各ユニットのモータサイズを最適選定することで各ユニットの待機電力量を削減するとともに各構成部品の小型化により使用材料、廃棄物の削減、回転部分の起動時ロスの減少等の省エネルギー化を図っています。小型化の参考例を主軸構成部品で比較すると、チャックは84%減、油圧シリンダは42%減となります。また、弊社2スピンドルタイプの鋳物部品の構成比較例より、ベッド2分割構造から一体構造としてZ軸スライドと主軸を移動タイプにすることで構成部品

点数の削減を実現しています。フロアスペースで約40%、質量では60%削減しています。ユーザ納入実績としては、ラインの総消費電力が従来比(他社6インチCNC旋盤)約70%減を達成しています。以上簡単に説明させていただきましたが弊社の「シンプル、省スペース、省エネルギー」の旋盤もさらに磨きをかけてシリーズ化を進め「お客様に満足を得られる商品を提供」していきたく思っております。

製品情報は高松機械工業ホームページで  
確認をお願いします。  
<http://www.takamaz.co.jp>

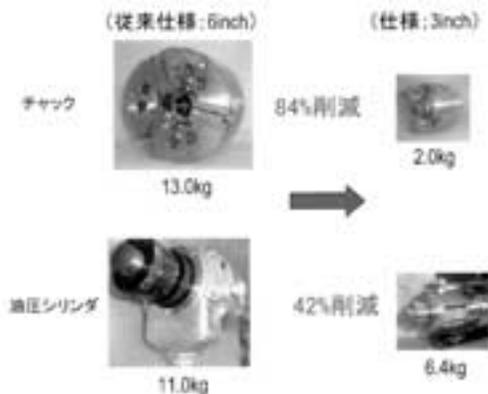


図2. 小型化の例

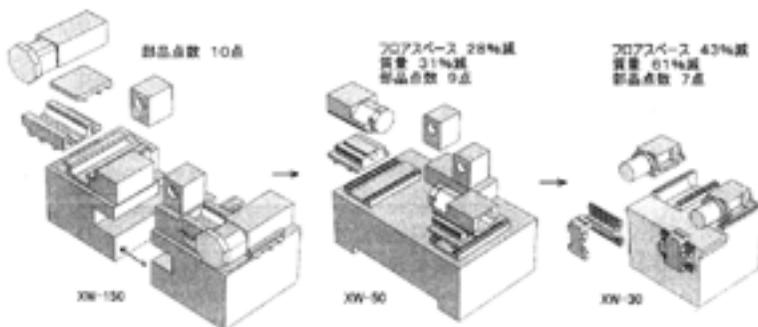


図3. 鋳物構成部品比較



## 温暖化、兼六園も雪がない



津田駒工業㈱  
工機販売部 東北地区担当  
寺西孝之

### 自分のこと

04年に入社して早4年が過ぎようとしております。大学で機械科を専攻しておりました。機械加工には非常に興味があり、私の地元が石川県ということもあったのですが、製品に対しての品質を重視し、ブランド力に溺れることなく常に前進し続けるという体制に感動し当社に入社したいと思いました。私にとって製品を実際に使っていただいているお客様は、お客様というだけでなく機械加工の先生でもあります。常に物を加工するために日々頭を巡らせているお客様は私よりも使い勝手について詳しくたりします。製品をPRしに行っているつもりが、逆に教えていただくことの方が日々の営業活動の中で多いことは確かです。大学では学べないようなことを働きながら勉強できるので、営業という職務について本当によかったと思っております。とにかく若いというのが私の何よりの取りえですので、機動力・行動力では誰よりも負けられないようにしたいと思っております。一日でも早く上司、先輩方に一人前として認めもらえるような仕事ができるように日々精進しております。

### 温暖化について

今年は近年稀に見る暖冬ということで各メディアが様々なテーマについて報道しています。

私の地元である石川県も今年は雪が全然降っていません。日本三大庭園のひとつである兼六園の木々に行く雪吊りも役に立っていないというのが現状です。観光客の方々は、雪吊りを行った木々の上に雪が積もった何とも情緒ある風景を楽しみに来られているのに、その風景を見ることが出来ないのが非常に残念がっているとのこと。石川県の降雪も1月はなんとゼロだったそうです。これは、観測史上初めてのことで今年の異常な暖冬を示していると思われます。また、2月上旬には暖かくて勘違いをしたのか土筆が顔を出したとのこと。

現状の気温から、4 上昇したとしたら北海道で見ることができる流氷が見られなくなってしまうというニュースを見ました。今も南極、北極の氷山がどんどん溶けていき、その近辺に住んでいる動物などは被害を被っているとのこと。遠い国で起こっていることなので、私たち日本人の意識は若干低くなりがちですが、身近な問題として真剣に考える時期が迫ってきているのだと思います。

東北地方も今年は雪が少なく、仕事上車での営業活動には助かってはいますが、雪が無い東北はなんとも気味が悪い。私は日々の営業活動において、車を使用しているときは駐車時には、エンジンを切るように心がけています。自分たちが作り上げた環境変化の代償を、自らが払わなくても済むかもしれませんが、自分たちの子孫が払わなければならない前に、今手を取り合っそうならないようにここで食い止めなくてはならない時だと思えます。

# 日本経済の現状と課題

経済産業調査会主催による恒例の経済産業省事務次官による講演が1月26日 富国生命ビルにて開催され聴講の機会を得ましたが、大変興味深い内容でしたので講演された北畑事務次官の講演内容要旨をお伝えします。

## はじめに

日本経済は「いざなぎ景気」を超える拡大と言われていますが、「経済成長の実感がない」「所得が伸びない」「格差が拡大している」と言った声が地方から多い。今日はなぜ地域間格差が起きたのかと言う点と、その処方箋についてお話をしたい。

地域間格差については、今回の景気回復が製造業を中心に回復し且つ外需即ち輸出及び海外子会社が利益を上げていると言った状況から景気が良いという事であって日本全体が良いわけではありません。従来地方の経済・景気を支えてきた大きな要素として公共事業がありますが、小泉内閣の時から毎年3%カットをしてきており、好調なのは

製造業、輸出産業、大企業であり、そのような恩典から建設業、商業、サービス業が取り残されている。それをどうするかという事ですが、ひとつは一時言われていた製造業の空洞化問題が反転し、日本にもういちど工場を建てようという機運が盛り上がり景気に取り残された地域に誘致する受け皿となる仕組みを作るという事と、もうひとつは、公共事業に依存しない地域的な産業をたとえ小さくとも増やしてゆく事です。

(以下資料に基づいて詳細な説明がありましたが、説明の要点を紹介します)

## 地域の回復の格差は産業構造に起因

製造業、特に自動車組立工場の立地する地域は回復が顕著であり、農林水産業、鉱業、建設業従業者が多い地域は回復が遅れている。下記表から47都道府県を有効求人倍率1以上、1未満で分けると概ね半々に分かれ、関東、甲信越、中部、近畿、瀬戸内が倍率1以上で人手不足となっており自動車

産業及び関連産業が立地していて景気がよい。一方県内の農林水産業・鉱業・建設業従業者を見ると全国平均15%以上の地域は公共事業に依存している地域が多く景気が悪く、こうした点からも地域格差が起きている。

有効求人倍率 (平18年11月)	総従事者に占める農林水産業・鉱業・建設従業者の割合		
	15%未満	15%以上20%未満	20%以上
1.6以上	愛知(トヨタ)		
1.3以上1.6未満	東京(日野)、岐阜、石川、滋賀、三重(ホンダ)	栃木(日産)、群馬(富士重)、福井、岡山(三菱)、香川	
1.0以上1.3未満	埼玉(日産D、ホンダ)、静岡(スズキ)、京都、大阪(ダイハツ)、広島(マツダ)	新潟、富山、長野、山口(マツダ)	山形、大分
0.7以上1.0未満	神奈川(三菱ふいすゞ、日産)、千葉、兵庫、福岡(日産、トヨタ)	宮城、福島、茨城	岩手、徳島、愛媛、鳥取、島根、熊本
0.7未満	佐賀、長崎	北海道	青森、秋田、高知、宮崎、鹿児島

## 企業部門の好調は、製造業が主役

東証一部上場企業の、ここ数年の増益は、大半が製造業によるものであり、景気回復の直前2001年度は営業利益総額17.6兆円のうち製造業、非製造業が丁度半々であったが、翌年度から製造業が増えており2005年度の営業利益総額32.2兆円のうち製造業20.2兆円、非製造業12

兆円となっており、特に輸送機器(自動車)と電気機器の増益が顕著となっている。

2005年度の増益企業上位20社をみると1位、本田技研工業、2位、トヨタ自動車と続き10位までは製造業が7社を占め、20社の中でも製造業が13社となっている。

## 製造業の堅調な売上は外需に依存

製造業は何で儲けているかという増収の大部分は外需であり、輸出高と現地海外子会社売上を合計した海外売上高が急増している。2005年度の製造業海外売上高の内訳をみると約7割が輸送用機器(自動車)と電気機器(家電・IT機器)となっ

ており、この2業種の輸出と海外子会社の好調に景気回復が支えられている。特に自動車メーカーでは、国内売上の伸び悩みを海外売上の好調によりカバーされている。

## 我が国を支える基幹産業

好調な自動車、家電・IT機器産業それぞれの生産規模は46兆円、64兆円と合計110兆円の産業で、この二大産業を支えている関連産業として部品、鉄鋼、電子部品、半導体、センサ、ソフト、素材、計測器、製造装置と幅広い部品・材料の関連産業群があり、かなりの部分は我が国に残っている。更に切削、プレス、鍛造、鋳造、金型、メッキと言ったものづくり基盤技術を担う中小企業群があり、

自動車、家電・IT機器産業を頂点としたピラミッド型の裾野は広く、幅広い関連産業が比較的狭い国土に高密度に立地している事が我が国の強みである。製造業それも自動車、家電・IT産業に特化した景気回復であって、やや危うい面もあるが、関連産業の頂点に位置する産業を育てていけば良い訳であり4年ほど前のビジョンとしてロボット、燃料電池を挙げたが、これが現在育ってきている。

## 海外市場が拡大する自動車産業

グローバル化に伴って海外生産の先駆けが繊維産業であって国内の生産が減少しており、家電産業は国内生産を維持しているが中身が変化し、従来国内で生産していた製品を中国、アジアにシフトしながら国内で新製品を開発・生産している。鉄鋼業は生産高1億トンから横ばいであるが低級品は海外にシフトし国内では高級品を生産している。そこで自動車産業はどうかということ実は海外で生産を増やすと同時に国内も生産を増しており、日本経済にとって重要な産業となっている。

自動車の国内販売は90年がピークで、ここ10年の生産は横ばいとなっている。90年前半の貿易摩擦をきっかけに自動車の北米での生産にドライブがかかっており、加えて近年はアジアでの生産も増加し国内と海外の生産台数を合計すると約2,200万台を生産しており、国内の生産はほぼ半分の約1,100万台で、国内販売は概ね半分、残りを輸出している。

海外生産をいかに急速に伸ばしてきたかというと表に示すとおり1990年の生産台数が326万

	1990年	2000年	2005年
海外生産台数(万台)	326	629	1,060
部品輸出額(兆円)	1.6	1.9	2.8

台に対し2000年は、ほぼ倍に、そして2005年は5割り増しと急速に伸びており、それに伴い部品輸出額も伸びている。

国内市場は1990年の販売台数778万台を

ピークに2000年には596万台に減少し以降横ばいが続いているが、これは自動車の耐久性が増し買い替え時期が2年ほど延びた点と原油高も影響している。

## 自動車産業の活発な対中投資と伸びる部品輸出

1994年に鉄鋼生産が中国に抜かれて我が国は世界第二位になったが、自動車もいずれ中国に抜かれかねない状況となっている。2005年の中国自動車市場規模は日本国内販売台数とほぼ同じで2010年は900万台となると予測されている。日本の対中投資は一時の中国ブームはやや冷めて鈍化しており、最近では「チャイナプラスワン」と言

われ中国に投資する際はリスクヘッジの為にアセアンに投資するか手の届く国内にもう一度投資するようになっており、中国に集中することではなくなっている状況の中で、例外が自動車産業であって日本市場を上回るマーケットが育つと見て、ものすごい勢いで投資が伸びている。

	1996年	2005年	2010年(見込み)
中国自動車市場規模(万台)	145	571	900
日系メーカーの進出状況	2社 3工場 20万台	7社 18工場 167万台	7社 27工場 357万台
対中国輸出額	331億円	2,851億円	

## 東アジア域内の工程間分業の進展

アジアの中で分業が出来つつある。日本、台湾、韓国と言ったアジアの先進工業国から資本集約型工程の基に付加価値の高い部品、加工品と言った中間材を生産し、労働集約的な工程に強みを持つ中国、ASEANに輸出し、そこで最終財に組立て、

最終消費地である欧米に輸出するという三角貿易構造が産業横断的に成立している。中間材輸出が約20兆円、中国、ASEANから最終財の欧米への輸出が約40兆円で総額約60兆円となっており、これは日本の総輸出額に相当する額である。

## 米国への主な輸出品目は自動車、電気機器、一般機械

今後の景気はどうかという事で我が国の景気に影響がある三点に注目したい、まず第一点目は北米景気であり、第二点目は原油価格の高止まり問題、そして三点目は消費の弱さについて考えてみたい。まず第一点目の北米景気について注目してみると、最近の北米向け輸出額に占める主な品目は自動車、電気機器、一般機械であり、これら品目が2005年輸出総額14.8兆円のうち約7割を占

め総額約10兆円(自動車4.0兆円、電気機器2.6兆円、一般機械3.3兆円)となっている。これらの業種は日本の景気を支えている産業のかなりの部分を占めており、北米がおかしくなれば日本も危ないと考えなければいけない。今年の北米はどうかという点につき新年にお会いした商社、メーカーの30人の社長さんのうち29人が今年は大丈夫と発言されていた。

## 原油価格の高止まりによる影響リスク

第二点目の原油価格についてはコストアップにつながるという心配があるわけで、景気回復直前

の2002年と直近2006年の収益のプラス要因とマイナス要因を分析してみると、2002年の第

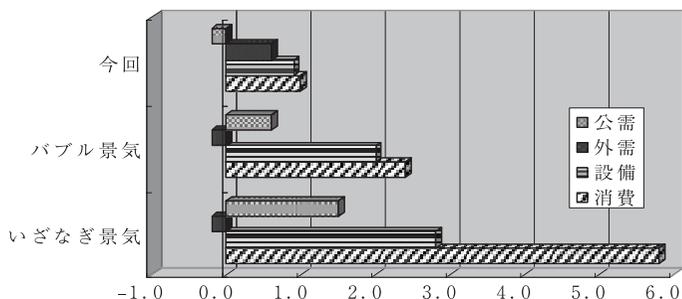
1四半期は収益を押し上げる要因が原油価格の下落とリストラによる人件費の減少であり、これで収益を押し下げる要因の売上減をカバーしていた。一方2006年の第3四半期は全く逆の姿であり、収益の押し上げる要因は売上増と販売管理費の減、収益を押し下げる要因が原油価格、資材の

高騰と人件費の増加となっており、原油高を売上増によってカバーし利益を出している状態で、景気が拡大している限りは問題とならないが、北米、中国経済が少しでもおかしくなり輸出が下がれば大きな影響を受けるという危うい面がある。

### 外需と企業が主導、家計に元気がない景気回復

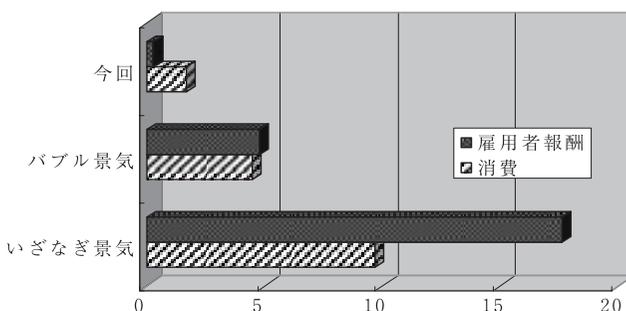
第三点目の消費については、GDPの6割が消費であるが、なかなか火がつかない状況となっている。高度成長期の“いざなぎ景気(1965年10月～70年7月)”と“バブル景気(1986年11月～91年2月)”と今回の景気を分析すると、消費、設備、外需、公需の寄与度(年平均、%)をみると高度成長期は消費で経済が回っており、丁度現在のインド、中国の姿にあてはまる。バブル期は消費と設備投資がトントンであり、今回は消費が1%ほどで景気の牽引役とはなっておらず、過去の景気は消費

の伸びで経済が回っていた訳である。(グラフは過去の主な景気局面における各項目の寄与度(%)を表す)



### 所得の伸び悩みが消費を制約

今回の景気回復においては、雇業者報酬の回復が遅れていることが、家計消費の伸びの勢いに欠けており、高度成長期には三種の神器と言われているものを購入してもまだ貯金が増えるという時代であった。今回は消費の伸びが小さく更にそれを下回って雇用報酬が伸びておらず、ここがまさに格差問題として議論なる点であり、非正規雇用が増え所得が小さく全体が伸びないという構図になっている。



### 競合する高額消費～伸び悩む自動車販売と好調なフラットTVと旅行

所得が伸びないので限られた所得増の中で自動車、AV機器、旅行など的高額消費がバッティングしている状況となっている。自動車購入を我慢し

てフラットTVを購入するか、旅行に行くと言った選択をし、いざなぎ景気のように三種の神器を一度に購入することがない。

## 中小企業の景況感

現状の景気回復は製造業が中心であり、それが外需に依存し、それも大企業が中心であって、中小企業はどうかと言うと景気回復から遅れているという声が多い。ただそれも業種によってずいぶん差があり一般機械、輸送機械、情報通信機械は好転したとする企業が多く、中小企業の約8割を

占める繊維、建設、小売、サービスが景況感として悪化しているとしている。従って中小企業全般としては、大企業ほど景況感は良くない訳で、これも格差問題の一つである大企業、中小企業格差の問題である。

## 製造業の新設投資が地域格差を埋める

有効求人倍率の低かった地域にも大型の投資が始まっている。投資を開始している経営者に理由を聞くと共通して“中国・アジアに比べ質の良い人材がある”と答えている。今や情報は瞬時に得られ、残る課題は物流であってコスト、時間という観点から、直近の例では中国、アセアンをにらんだ自動車産業の九州進出である。これと同じ例で北米をにらんで北海道のアイシン、東北の関東自動車、コマツが北米に最も近いこれら地域を選択している。

こうした流れをもう少し加速する仕組みが作れないかと言う事から省内で議論し、地域への産業集積に関し今度の国会に法案を提出する。過去の工業再配置法のようなものではなく発展するアジア全体の中で最適な立地を求める時には、台湾、中国、アセアンに負けない環境を整備するので日本に立地しなさいという考え方である。その基本となる事は“Speed & Commitment”であり地方分権化を進めている中で企業誘致への許認可のスピードアップである。

有効求人倍率 (平18年11月)	県名	都市名	企業名		投資額 (億円)	稼働時期
1.0以上1.3未満	山形 大分 大分	鶴岡 中津 大分	山形日本電気 ダイハツ 大分キャンノ	新設	800	2005年5月
				新設	235	2007年12月
				新設	140	2007年5月
0.7以上1.0未満	岩手 岩手 茨城 和歌山 鳥取 徳島 福岡 佐賀	八戸 岩手 ひたちなか 和歌山 鳥取 鳴門 北九州 佐賀	三菱製紙 関東自動車 コマツ 住友金属鉱業 日本セラミック 日亜化学工業 デンソー 小糸製作所	増設	200	2007年度中
				増設	183	2005年11月
				新設	300	2007年1月
				新設	2,000	2009年
				新設	30	2007年9月
				新設	未公表	2006年
				新設	200	2006年11月
				新設	100	2006年10月
				新設	100	2007年4月
0.7未満	北海道 秋田 宮崎	苫小牧 にかほ 宮崎	アイシン精機 TDK 富士通日立PD	新設	100	2007年4月
				増設	10	2007年度中
				新設	850	2006年10月

## 景況感の厳しい業種・地域における前向きな取り組み

公共事業に代わる自立的な産業を地方に沢山育てようということで、これを支援するために中小企業庁が法案を提出する。それは地域資源を活用して地場産業を育てる人達を応援するという法律である。5年間で1,000プロジェクトを興すとい

う数値目標をかがげ、2,000億円の基金を用意して地域にファンドを作り、融資ではなくリスクを伴った投資として地場の銀行と一緒にやっていく。

## 2006年日工会受注・販売実績

去る2月15日(木)(社)日本工作機械工業会は2006年の工作機械受注実績の概要を発表した。

年間受注総額は前年比で+5.4%の1兆4,370億円で4年連続の増加となった。90年ピークの1兆4,121億円を16年ぶりに更新し史上最高額を記録した。年間受注額を年初に1兆2,000億円と見通し、年央の8月にはこれを修正し1兆4,000億円(史上最高額を期待)とするなど、概ねこれに沿って好調に推移した。月次の受注状況を見ると受注額は04年5月以降1,000億円超える水準で推移しており12月まで32ヵ月連続となり、90年好況期(22ヵ月)を上回り最長期間更新を続けている。前年比では02年10月から06年11月まで連続50ヵ月プラスとなり97年回復期の45ヵ月を超え最長期間となった。内需は前年比1.8%の7,330億円、業種別にみると11業種のうち8業種がプラスとなったが、自動車向けが04~05年急拡大前の水準にとどまったこともあり前年実績を幾分下回った。外需は前年比+14.2%の7,040億円、初の7,000億円台を記録し過去最高額を3年連続更新した。

尚2007年については、内需は高水準を持続し、外需はさらに拡大が見込まれ1兆4,000億円台で引き続き好調を持続すると見込んでいる。

同時に発表された機種別受注実績及び販売実績は下記の通りです。業種別受注高は日工販ニュース2月号を参照してください。

(単位：百万円、%)

機 種	曆 年	受 注			販 売		
		2005年	2006年	前年比	2005年	2006年	前年比
旋 盤		406,880	450,596	110.7	370,931	436,485	113.5
ポ ー ル 盤		44,749	56,050	125.3	43,267	54,695	126.4
中 ぐ り 盤		22,750	24,524	107.8	15,977	18,636	116.6
フ ラ イ ス 盤		13,226	12,906	97.6	15,657	11,146	71.2
研 削 盤		120,117	109,871	91.5	112,527	118,678	105.5
歯 車 機 械		29,776	30,001	100.8	28,725	28,649	99.7
専 用 機		74,066	52,718	71.2	75,990	59,463	78.3
マシニングセンタ計		471,429	517,881	109.9	418,213	498,290	116.1
立 て 形		215,508	230,901	107.1	180,483	223,865	119.6
横 形		204,695	228,108	111.4	199,591	228,168	111.9
そ の 他		51,226	58,872	114.9	38,139	46,257	121.3
放 電 加 工 機		58,726	59,691	101.6	58,046	60,201	103.7
そ の 他		79,788	83,547	104.7	74,690	80,289	101.7
F M S 計		41,696	39,185	94.0	32,478	40,726	125.4
計		1,363,203	1,426,970	105.4	1,246,501	1,407,258	110.3

出所：(社)日本工作機械工業会

## 2006年 工作機械機種別輸入通関実績

(平成18年 1月～12月)

単位：百万円

機 種	台 数	金 額
NC横旋盤	1,305	4,813
横旋盤	2,635	553
その他NC旋盤(横旋盤以外)	193	1,533
その他旋盤(横旋盤以外)	733	125
小 計	4,866	7,025
ウェイトタイプユニットヘッド機	10	37
小 計	10	37
NCボール盤	44	872
ボール盤	22,331	993
小 計	22,375	1,865
NC中ぐりフライス盤	7	191
中ぐりフライス盤	105	33
その他の中ぐり盤	24	159
小 計	136	384
NCひざ形フライス盤	84	602
ひざ形フライス盤	61	284
NCフライス盤	201	3,873
フライス盤	1,388	171
小 計	1,734	4,931
NC平面研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	204	1,328
平面研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	728	1,524
NC研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	227	3,386
研削盤(軸の位置決めが0.01mm以内の精度)	143	789
NC工具研削盤	161	2,766
工具研削盤	26,741	312
ホーニング盤及びラップ盤	139	1,042
その他研削盤	70,775	1,414
ホーニング盤、ラップ盤、研磨盤その他仕上げ用加工機	3,872	861
小 計	102,990	13,427

単位：百万円

機 種	台 数	金 額
歯切り盤、歯車研削盤及び歯車仕上盤	161	10,699
小 計	161	10,699
マシニングセンタ	572	4,620
小 計	572	4,620
ユニットコンストラクションマシン	4	341
マルチステーショントランスファーマシン	16	1,503
小 計	20	1,845
レーザー及び光子ビーム加工機械	1,195	16,797
超音波加工機械	52	241
NCワイヤカット放電加工機	974	7,391
NC放電加工機(ワイヤ放電以外の機械)	423	2,875
放電加工機	179	550
ドライエッチング機械(半導体加工機械)	281	58,560
電気化学方法、電子ビーム、イオンビームその他加工機	964	766
小 計	4,068	87,181
ねじ切り盤及びねじ立て盤	1,274	563
形削り盤及び立削り盤	204	194
ブローチ盤	6	20
金切り盤及び切断機	62,105	2,302
その他の加工機械	213	478
小 計	63,802	3,561
工作機械合計	200,734	135,579

出所：財務省貿易統計

## 「天才社員の育て方」

児玉光雄 著（日本経営合理化協会）



㈱セイロジャパン

取締役社長

大嶋 秀幸

この「天才社員の育て方」を紹介する前に、出版社である「日本経営合理化協会」について、企業経営者の方であれば、一度はこの会社の書籍を読んだ方も多数居られるでしょう。

小規模企業経営者にとって、経営学習するには、あまりにも忙しくて勉強の時間が確保できないのが、現実ではないでしょうか？ 私は20年前新会社を創業したとき、一倉定先生の「社長の経営学シリーズ」を読破して、企業経営の基本を習得しました。感銘を受けた書籍は多数に上りますが、その時に初めて、中村天風の哲学にも触れました。

中小企業レベルの会社に成長したときに、一番に影響を受けたのは、スター精密㈱の故佐藤社長が書かれた、「長期経営計画の策定」でした。利益目標の設定から始まり、長期の予想貸借対照表を策定して、計画の実行に展開する実務の経営活動を覚えました。

今回紹介する「天才社員の育て方」は、手に取ったとき、「もしかしたら誰でも天才になれる方法」があるかも知れないと感じて、仮説を立てて読破しました。この書籍の主人公は、「シアトルマリナーズで大活躍しているイチロー選手」について、どのようにすれば天才といわれる人間に成長できたのか。幼少期の時から、愛工大名電高校、オリックスに行って活躍するまでのストーリーを参照しながら、天才への道を語っています。

人間に対する考えかたとして、リーダーは、どのようにしたらその人の可能性を発揮できる環境を与えてあげられるか、失敗を恐れない組織風土を与えてあげられるか。イチローやタイガーウッズのような成功者へのプロセスは、スポーツ選手育成方法の成功事例ですが、このプロセスで天才育成できるならば、ビジネスの人材育成にも活用できるであろうということを著者は述べています。

長年の経験から、育成プロセスを「16のタスク」に体系化して、このタスクをこなしていくと、自然に社員は、「持続力」「没頭力」「創造発想力」「人間力」の4つの能力を獲得して驚くほど会社に貢献してくれるでしょう。

日本の製造業は、「世界NO.1の技術」を持たなければ継続と成長が困難な時代にあり、スポーツで言えば、「オリンピックで金メダルを取らなければ存続できない」ほど、厳しい時代にいます。したがって、企業組織の成長のためには、社員一人一人が、天才的能力を発揮できる会社にしなければなりません。その条件は、異端児が会社を伸ばす、本物の自主性を育てよ、天才を育てられるリーダーの条件として、今までの「命令型のリーダー」から「ビジョン型のリーダー」のいる組織であること、天才が育つ環境を整備してあげること。

16の詳細のプロセスを記述すると

持続力をつける。

i 小さなことから ii コツコツ iii 忠実にまねる iv 小さい目標設定

成功する人の共通点は、はじめに持続力をつけること、何でも成功するまでやり続ける人が成功すると言われていました。

没頭力をつける。

i 宣言して必ずやる ii プロセス管理 iii 内発的モチベーション iv 集中する時間を確保する  
人間が一度にできることには限界があって、何事も時間を忘れて没頭して、物事に取り組んでいる人は、必ず成果を上げています。

創造、発想力をつける。

i 本物のプラス思考 ii 頻繁にイメージする iii 直感を使う iv 願望から信念へ

この段階は「アメリカの成功哲学」に似ていますが、重要なのは、持続力、没頭力の段階を習得してから、創造力、発想力が発揮されてくることでしょう。左脳のレベルから、右脳の開発段階に入ってアイデアや直感が働きやすいレベルまで向上しています。

人間力をつける。

i 危機管理 ii 回復力 iii 行動 iv 自己実現

この段階は、判断力、実践力、自分の能力を最大限に発揮できるようになることです。

この本を読んでいくうちに、「アメリカの社会構造」には、このような16のステップが存在しているのではないかという仮説が浮かんできました。なぜならば、アメリカは長年にわたって、オリンピックでは最大多数の金メダリスト、ノーベル賞学者、世界的ビジネス成功者、などが育成されるところを見ると、成功へのプロセスが存在しているのかも知れません。ところで、日本ではどうでしょうか？

日本にも、過去にはこの「天才の育成プロセス」が存在していたような気がしてきました。

日本古来の武士道の中に、このプロセスを見つけられませんか？たとえば、宮本武蔵の生涯などは、心身の統一を達成できた人の「天才人としての生涯」が描かれています。古言に、「己の欲すること、法を越えず」とした道を極めた道人の生涯があります。イチローの人生を見ていると、ひたすら道を極めようとしているように見えるのも、読者一人が感じるものではないでしょう。

会社の中で、「天才社員を育成」できるには、ビジョン設定型のリーダーの存在、主体性を尊重する組織、自主性を発揮できる人材、このような環境において、上記の16のタスクを体系的にこなしていくことによって、私の会社でも、天才社員を育成できるようになりたいものです。また「夢は大きく」持ちたいものです。

## お知らせ

### 第38回通常総会のご案内

当協会では下記により第38回通常総会を開催致しますのでご案内申し上げます。  
ご予定願います。

開催日 / 平成19年6月6日(水) 会場 / 八重洲富士屋ホテル

通常総会 / 13:00 ~ 14:20

記念講演 / 14:30 ~ 16:00

講師 / 関満博氏(一橋大学大学院教授) 演題 / 未定

懇親会 / 16:30 ~ 18:00

## 西部地区新春時局講演会

日時：1月24日(水) 15:00～16:45  
場所：エル・おおさか(大阪府立労働センター)  
5階研修室2

参加者：正会員20名、賛助会員メーカー10名、  
リース3名、事務局1名、計34名

演題：新たな上昇期への足固め  
『破壊から創造へ』

日本経済・社会の底流を読む

講師：松下 滋氏  
明海大学経済学部講師  
元三和総合研究所取締役理事



赤澤委員長より挨拶があり、司会の横幕委員より講師紹介の後、恒例の松下講師による講演が行われた。

### 講演要旨：

今年は2005年を転換点とする新たな上昇期への足固めの年(例えば、1階から2階へ上がる踊り場、フォローの風の中での風)。

先々へ向けて、希望・信念・勇気を持って中期戦略(人材の確保等)をもう一度総点検・足固めして2008年、2009年につなげる大切な年。

2007年度は踊り場景気で2%成長。

内需の核である個人消費が今ひとつはつきりしないが、設備投資、輸出が引っ張る。

日本経済予測(三菱UFJ R&C調査)：

実質GDP 2.0% 良くもなし悪くもなし。

個人消費 1.8% 良くもなし悪くもなし。

労働者にお金が回っていない。労働分配率63%、  
過去25年間の平均は65%、ピークは73%。

設備投資 4.6% レベルとしては高い。

公共投資 - 5.9% 無駄な投資はしない。

輸出 6.5% 日本経済を支える。世界経済の懐が深くなったことによる。

ドル円レート 119.3円。

長期金利 2.19% 3%を超えることはない。

金融政策 0.25%上げ。

日銀はこの2～3月正念場。

株価日経ダウ平均 18,000円台。

足元を固めながら来年再来年に向けて準備する猪だ。

### 景気の現状

#### 1. 海外環境

米 政治：06/11中間選挙民主党躍進

内向き化・保護主義化懸念

経済：スローダウン、住宅産業停滞、原油価格ピークアウト、金利引き上げストップ、輸出環境堅調。  
05年3.3%、06年・07年(予測)3%・2%成長。

中 高成長持続 経済が「若い」

課題が成長を抑止することはない。

30～40年前の日本と同じ。

08年北京オリンピック、10年上海万博までは  
05年10.2%、06年・07年(予測)10%・9%成長。

07年(予測)

アジア(9カ国)実質7%成長、EU 実質2%成長、ドイツ経済ようやく起き上がる。

世界経済：腰が強い。平和を前提に懐が深くなった。多極化：BRICs以外にベトナム、メキシコモ。

#### 2. 日本：しばらくは「踊り場」的

##### 政治：

安倍政権スタート。

美しい国、再チャレンジ、イノベーション「創造」、  
伝統・歴史・文化、美しい人間づくり、人間力。

##### 経済：

いざなぎ景気(1965-70、57ヵ月戦後最長、  
年率11%の成長)越え。(2002.2-07.1で  
60ヵ月、年率2%の成長)緩やかな拡大。

実感がないがそれは年率の傾斜角度の違い  
景気循環の1サイクルが長くなった。

山・谷の差が縮まった

在庫管理技術の進歩のおかげ。これは世界的な傾向。

輸出環境はさほど悪くない

米国への依存度低下。

個人消費加速せず

個人所得の伸び弱。

パートタイマー増、規制緩和、情報通信技術の発達、中国等発展途上国(通貨割安国)からのデフレ効果(賃金、物価)、組合=春闘~国民的賃上げガイドラインが無くなった。

05年度 実質3.3%、06・07年度(予測)2.2%・2.0%成長。

流れ

1. 海外の日本観、大きく変化

英: ビル・エモット「日はまた昇る」(エコノミスト誌 05.10.8)

1960年代「日は昇る」。1980年代初め「日は沈む」。1980年代終り「日はまた沈む」。経済の現場を見て歩いた上で発言。ネガティブなリストではなく前向きな企業の自己革新:スリム化、イノベーション=少子高齢化(労働力不足)の壁を越える=省力化投資=ロボット化が定着し始めている。日本の企業家は拱手傍観していないで「課題は解決されるためにある」(レーニン)をやりに始めた。

米: 「日本の銀行は蘇った」(ビジネス・ウィーク誌 05.9.26)

大銀行不良債権比率 01年9% 05年5月2.9% 06年さらに低下=金融システムの徹底改革がバックアップ。

地域の金融機関(例えば池田銀行)の出番:メガバンクとは違う生き方。

2. ゆるやかだが新たな上昇期へ

変革のエネルギー:選手交代、イノベーションのうねり

3. トrendは上昇期(2005~2035年)

- 60年サイクルの視点(参照:公文俊平教授)

2005年が節目の転換点だった

政治: 93年から12年

「自民党単独政権終わり」 干支が一巡

社会: 95年から10年

「信頼性崩壊」 十年ひと昔

金融: 97年から8年

「山一証券倒産」 桃栗三年柿八年

上昇期{30年}

1885~1915 強兵 坂の上の雲を目指す

1945~1975 富国 近代化 高度成長

2005~2035 豊知 高度情報化社会、情報発信 影響力、文明力

下降期{30年}

1915~1945 ぼんやりした不安 敗戦

1975~2005 Japan as No.1 パブル崩壊

追想 橋本龍太郎 06.7.1没 68歳

・政局優先の政治の世界で「政策」というキーワードを強調

・平成の大改革の骨太の方針を明示:6大改革 行革、金融システム、経済構造、社会保障、財政構造、教育

これらビジョンを小泉首相が実行に移した。

次の課題は 行政改革

手本 台湾2院制 1院制

2008年代議士数113人に(225人を)

地方経済の活性化(内需の懐を広げる)。

地方分権(道州制) 反骨精神(日本の伝統)さえ示せばいくらでもやっていける。

シンガポール

たった人口300万人の何も無い国。知恵を巡らせて国際会議をやり観光客を集めている。外人労働者120万人。観光者1000万人。セントーサにカジノを作る。

村上ファンド、ホリエモンはセミの時間軸(キリギリよりもっと短い)。歴史・伝統ある日本、長い時間軸のテーマに思いを馳せるべき。安全、健康、環境、教育(人づくり)。安全は暮らしの豊かさ、幸せの大前提。安全の市場価値は一喜一憂の短期景気変動を超えて中長期的に底堅い。

4. アジアは初めて2強の時代(今までは1強だった)

中国=兔(年率10%で高成長し続ける国)

日本=亀(革命は起きないが緩やかな変化を積み重ねはじめた国)

感情的にならず、教条主義に走らず、冷静に知恵をめぐらしてお互いの実益を求めべき。

相互実益主義(中国は日本以上に実益主義)の追求。

5 .少子化、高齢化への対応

少子化 英国の対応例 出生率が反転上昇

高齢化 エルダー・マーケットの発掘

学ぶ 働く 楽しむ

global aging 各国とも先行き高齢化 日本 先駆的  
経験を世界へ発信( 環境問題と同様に )。

労働者平均年齢( 2025年 )

日 50歳 中 46歳 独 48歳 米 39歳

中国1960年出生率6人 今は2人位。13億人の国  
が大変な逆ピラミッドになる。

6 .会社法施行( 06年5月 )

取締役の自由度拡大vs 情報の適時開示

ドイツ的「規制」を前提にした旧商法の流れから  
決別して、米国流の「自由」を前提としたものに抜本  
改正。会社法、内部統制システムの本質はシンプル。  
取締役の自由に対抗する措置として、よい情報もマイ  
ナス情報も適時開示する。そこさえしっかりやってお  
けば会社の持続的発展につながる。QCにしてもISO  
にしても、要は目的は何かを冷静に見極めることが  
大切。

昨年末～年初号の英国「エコノミスト」誌巻頭論文  
“ハピネス”( 副題“difficult to measure”)は示唆  
に富む。

世界的に自由市場経済により成長、リッチマン、自由  
これは“幸せ”とは別なのでは?

量るのが難しいが何が幸せなのかを見直す時期に  
来ている。資本主義はそのあたりを目配りすべきであ  
る。お金はもちろん大事、その一方で幸せとのバラ  
ンスをどう求めるか?

生き甲斐? 自己実現? どうつなげていくか、どう幸  
せにつないでいくか大事なテーマ。

お金と成長と自由そして幸せとのバランス、短い時  
間軸と長い時間軸とのバランス。

我々は、利己と利他、欲望と理想のバランス感覚を取  
り戻しさえすれば、坂の上の雲を目指す一気のかけあ  
がりではない、緩やかながらもいわば地平線のかなた  
を目指して、2035年に向けての約30年、新たな上  
昇期を、知恵をめぐらしていけば本当にいい時代にも  
っていける。



## 日工販 SE 合格者 第140回発表

今回は2月の合格者13名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
07-16-1857	伊吹産業(株)	西峯 隆	07-16-1864	首都圏リース(株)	藤田 吉貴
07-16-1858	伊吹産業(株)	島田 季明	07-16-1865	昭栄産業(株)	東條 伸彦
07-16-1859	メルダスシステムエンジニアリング(株)	水野 幸司	07-16-1866	昭栄産業(株)	平岩 敏彦
07-16-1860	メルダスシステムエンジニアリング(株)	大橋 尚高	07-16-1867	昭栄産業(株)	関根 清隆
07-16-1861	メルダスシステムエンジニアリング(株)	柴田 耕治	07-16-1868	昭栄産業(株)	加藤 丈晴
07-16-1862	GEキャピタルリーシング(株)	彦坂 直人	07-16-1869	昭栄産業(株)	和田 秀忠
07-16-1863	GEキャピタルリーシング(株)	菅野 雅志			

## 『更新研修』合格者 第80回発表

今回は2月の合格者1名です。

認定No.	会社名	合格者名
07-11R-1464	三和工機(株)	加藤 信行

## 三河から世界へ



ユアサ商事(株)  
中部工業機械部岡崎支店  
課長  
渡辺 正志

早いもので今年ももう2ヵ月が過ぎ、入社17年目を迎えました。入社以来、幸か不幸か愛知県の西三河を中心に工作機械の販売に従事してきました。

「三河は良いね。自動車メーカーと関連部品会社が多く点在し景気は常に右肩上がり。」とよく言われますが、そんな恩恵を受けたのはほんの僅かであったように思えます。私が入社した17年前はバブル崩壊寸前。内勤業務から営業に移った頃で周りの状況は最悪でした。回れども回れども機械は売れない。無理して販売したら、回収でトラブル、そして倒産という事もあり、自信喪失・自暴自棄・人間不信になりました。でも今こうして会社勤めが出来るのは、当時の上司や先輩、同期の仲間、それに彼女(今の家内)のお陰であったと今更ながら痛感しています。

今やものづくりのコストは中国が基準。「高くて良い物は当たりまえ、安くて良い物を国内で！」こんな声がよく聞かれます。その一翼を担うべく、必死に対応すれどもコスト圧縮の矢面に立たされる一番手は商社のマージン？最近実感する正直な気持ちです。

多くのユーザーは海外に活路を見いだそうとしています。しかし、現実はそんなに甘くありません。行ってみたら話が違う、ものづくり以前に問題山積、帰るに帰れない。でも何とかやり抜こうと必死に努力しています。そんな折、「商社は機械を売るだけ？商社機能として何をしてくれるの？」と鋭い言葉が目の前に突き付けられます。返答に窮する問い掛けに役に立てる決定的なものは何なのだろうという思いが募ります。そんな時考えるのは、自分を育ててくれた国内メーカーが持っている技術力の高さ、几帳面さ、無駄を省き必要最低限度でかつ誰が使っても故障のない安定供給可能なシステム構築、そんなものづくりの基本となる部分を、とにかく自分なりに提案しお客様のものづくりに反映させて行く事が自分の使命なのだ和我に返ります。

米国ピック3はもとより国内自動車メーカーも、サプライヤーに対し全世界同品質部品供給を要求しており、それが現実となっています。私が入社した17年前、自分自身が全く予想もしなかった工作機械業界の国際化の現実、自分のかかわったお客様の加工品が、世界のそうそうたる自動車メーカーから厳しいチェックを受けて供給されている現実に身の締まる思いであるのと同時に、この三河の地には世界が要求する技術が詰まっているのだと実感しています。そんな非常に魅力的で、常に技術革新が行なわれ、より未知なるゾーンへ益々突き進んでいるこの業界に身をおけることに誇りを感じ、己の未熟さを少しずつ克服していこうという思いを強くしている今日この頃です。

# 統計資料

## 工作機械・FA流通動態調査 1

### 統計1

単位百万円

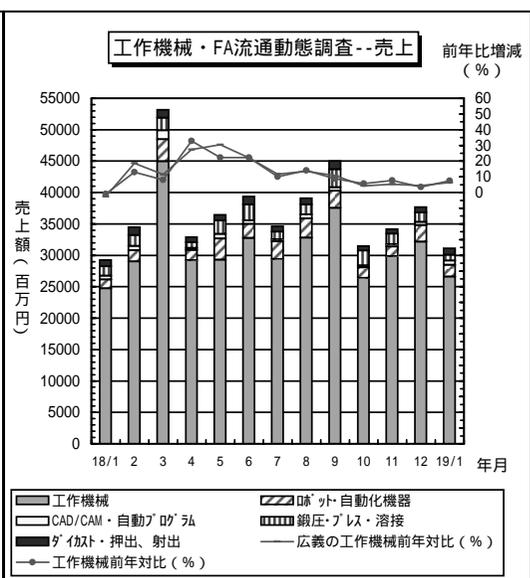
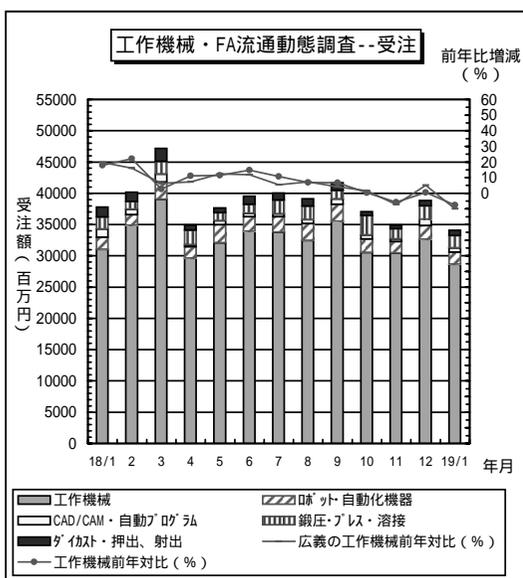
34社合計	受 注					売 上					
	調査月次	19/1	前月比	前年比	18/4-19/1	前年比	19/1	前月比	前年比	18/4-19/1	前年比
広義の工作機械	工作機械	28,666	-12.2%	-7.6%	319,575	4.7%	26,596	-17.3%	7.4%	306,028	12.8%
	ロボット・自動化機器	1,891	-12.9%	-2.5%	22,873	6.3%	1,873	-29.1%	33.0%	23,563	23.2%
	CAD/CAM・自動プログラム	688	-32.5%	-47.8%	6,332	11.0%	700	38.0%	19.6%	5,049	18.2%
	鍛圧・プレス・溶接	1,983	-9.0%	3.3%	19,623	-5.2%	924	-39.2%	-38.7%	17,756	5.7%
	ダイカスト・押出、射出	859	-0.2%	-46.7%	9,484	-17.9%	1,026	17.4%	4.9%	9,616	9.6%
	小計	34,087	-12.3%	-9.8%	377,886	3.6%	31,119	-17.5%	6.5%	362,012	13.1%
	工作機械以外の扱い商品	10,957	-22.3%	-4.3%	129,202	4.2%	11,575	-16.4%	9.3%	124,613	8.3%
	合計	45,044	-15.0%	-9.3%	507,235	3.1%	42,694	-17.2%	6.1%	486,625	11.5%
	従業員数	1,231	0.2%	1.4%							

### 統計2

単位百万円

32社合計	受 注					売 上					
	調査月次	19/1	前月比	前年比	18/4-19/1	前年比	19/1	前月比	前年比	18/4-19/1	前年比
内 訳	直販	22,063	-12.4%	-16.3%	247,510	-1.0%	20,621	-19.8%	3.5%	227,192	4.1%
	(内リース)	1,542	-11.0%	27.1%	16,078	-8.4%	6,702	271.6%	137.4%	24,806	13.8%
	卸	9,902	-12.4%	3.0%	105,900	9.7%	9,914	-17.0%	18.0%	108,456	24.9%
	輸入	175	-90.8%	-18.2%	10,678	155.4%	94	-71.0%	23.7%	5,673	142.8%
	輸出 (内トランスプラント)	3,355	-24.0%	-44.2%	42,381	-5.9%	3,331	-29.0%	-11.3%	43,878	17.9%
	従業員数	957	0.1%	1.8%							

注：本調査は会員72社中統計1に関しては34社、統計2に関しては32社の回答を得て集計したものである。  
折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。  
参考までに今月のデータ提供会社総数は43社である。



## 工作機械業種別受注額(2007年1月)

2月15日発表

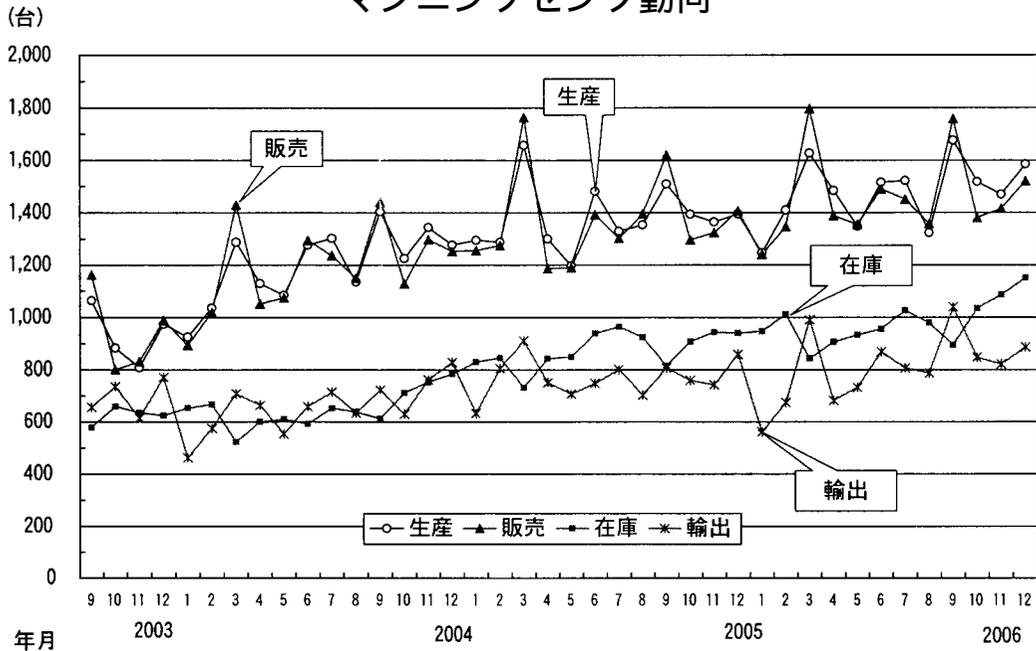
(単位:百万円、%)

需要業種	期間	2006年 累計	前年比	2006年 7~9月 累計	2006年 10~12月 累計	前期比	前年同期比	2007年 1月累計	1月分	前月比	前年 同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属		12,996	111.9	2,741	3,121	113.9	84.1	1,145	1,145	124.9	139.1
2. 金属製品		21,030	92.9	5,360	4,178	77.9	83.9	1,470	1,470	99.3	79.4
3. 一般機械 (内金型)		330,108	109.2	83,649	81,792	97.8	104.3	24,307	24,307	86.4	95.5
4. 電気機械		66,667	90.3	17,286	14,023	81.1	78.3	5,470	5,470	117.8	95.0
5. 自動車 (内自動車部品)		52,333	118.1	11,775	13,635	115.8	110.8	3,711	3,711	106.9	95.5
6. 造船・輸送用機械		195,505	75.5	46,184	43,336	93.8	73.1	15,459	15,459	118.0	85.2
7. 精密機械		89,157	80.7	21,156	23,266	110.0	99.4	6,936	6,936	96.0	91.8
3~7. 小計		27,066	113.0	7,037	6,674	94.8	95.5	2,994	2,994	136.6	124.9
8. その他製造業		36,813	111.8	8,676	9,876	113.8	107.4	2,391	2,391	79.2	69.3
9. 官公需・学校		641,825	96.9	157,321	155,313	98.7	93.4	48,862	48,862	97.9	91.6
10. その他需要部門		37,719	113.2	9,861	9,721	98.6	113.3	2,779	2,779	84.1	107.4
11. 商社・代理店		2,100	132.2	463	1,060	228.9	152.7	188	188	90.4	197.9
1~11. 内需合計		8,368	137.6	1,789	1,505	84.1	72.3	786	786	164.8	132.3
12. 外需		8,971	99.1	2,003	2,354	117.5	95.4	438	438	66.7	62.5
1~12. 受注累計 (内NC機)		733,009	98.2	179,538	177,252	98.7	93.9	55,668	55,668	97.8	92.8
		703,961	114.2	172,213	186,426	108.3	113.6	64,223	64,223	92.8	121.0
		1,436,970	105.4	351,751	363,678	103.4	103.1	119,891	119,891	95.1	106.0
		1,374,496	105.4	336,791	349,183	103.7	103.7	115,443	115,443	95.4	107.0
販売額		1,407,258	110.3	369,973	346,422	93.6	108.2	111,600	111,600	89.9	110.0
(内NC機)		1,348,759	110.6	355,257	332,111	93.5	108.7	107,788	107,788	90.7	111.0
受注残高		684,266	106.2	663,623	684,266	103.1	106.2	693,505	693,505	101.4	105.7
(内NC機)		649,607	106.5	629,029	649,607	103.3	106.5	658,277	658,277	101.3	105.9

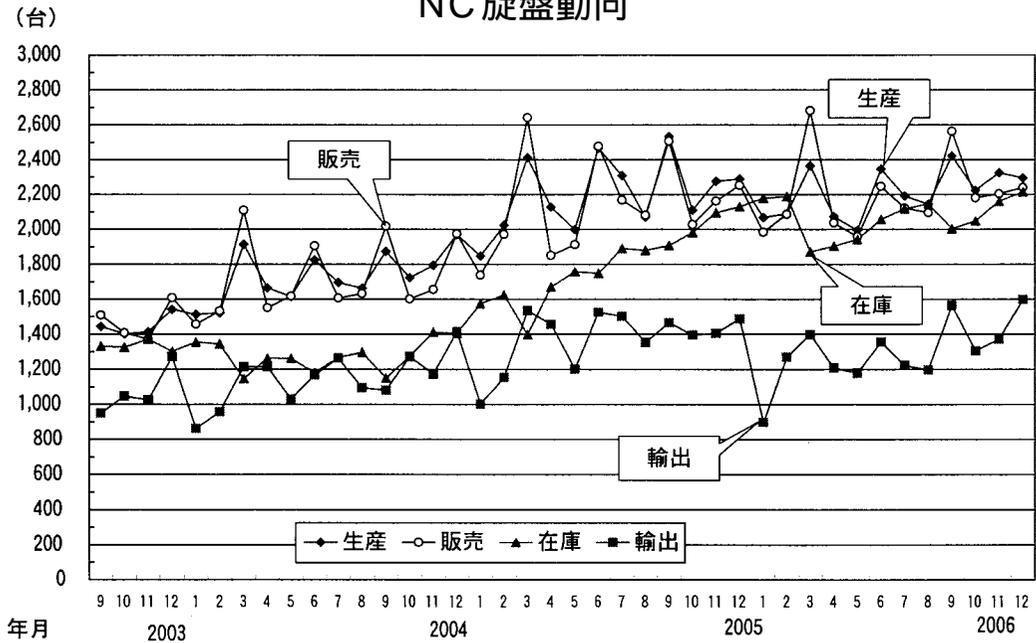
出所(社)日本工作機械工業会

# 見てわかる 3年間の代表2機種トレンド

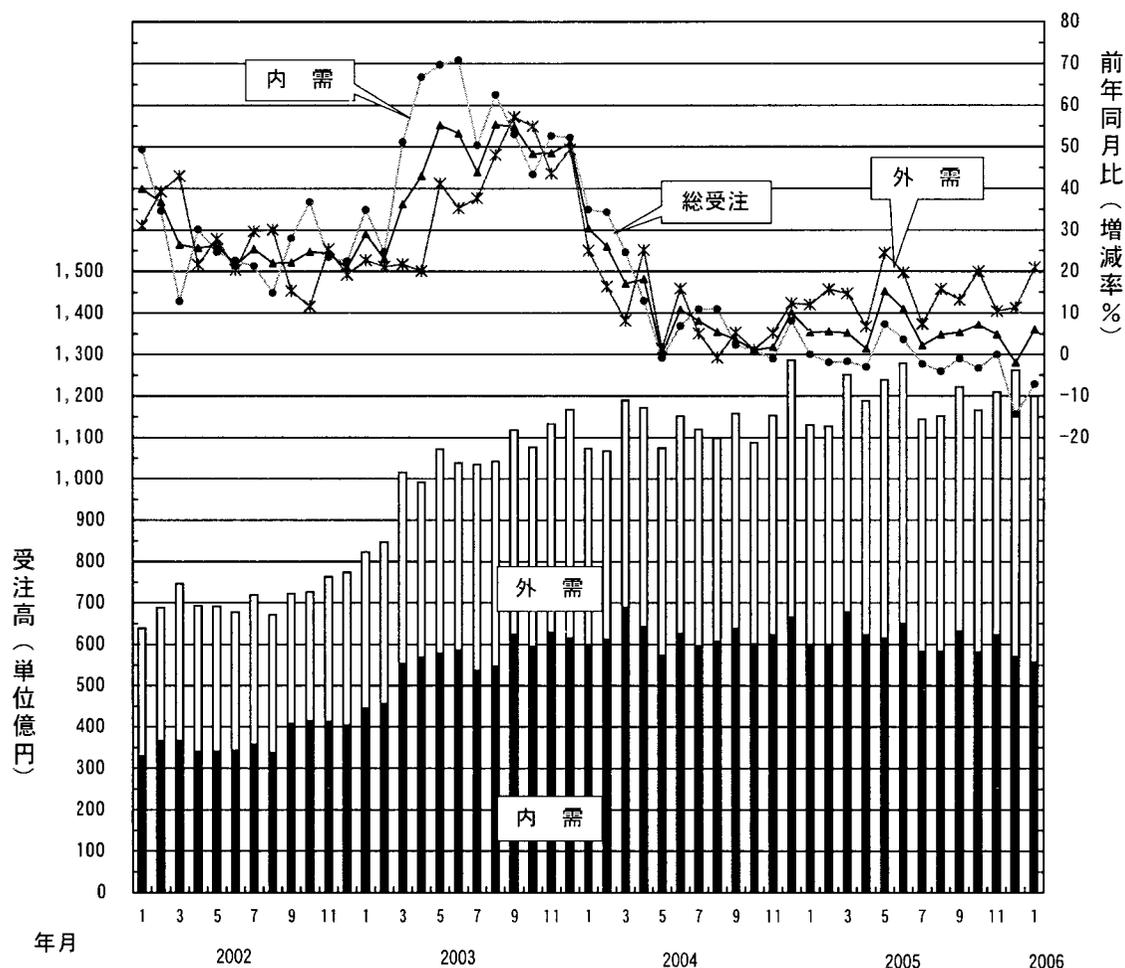
## マシニングセンタ動向



## NC旋盤動向



## 工作機械受注高月別推移



## コメント：工作機械受注高月別推移

平成18年第4四半期の月別受注金額は前四半期同様1,100～1,200億円台の高原状態である。しかし前年同月比では前期同様で内需は6.4%減となる。その反面外需は相変わらず好調で14.2%増、そのおかげで総額は3.1%増となった。前期比では内需で1.3%減、外需8.2%増、総額3.4%増。

## コメント：マシニングセンタ、NC旋盤動向(四半期ベース)

第4四半期の前年比は生産はそれぞれ10.1%増、2.9%増。販売は7.1%増、2.6%増と高い水準の中で伸びている。輸出はマシニングセンタは8.2%増となったが、NC旋盤はほぼ横ばいで推移。

前期比でみると生産はそれぞれ1.2%増、1.3%増と微増。販売はそれぞれ5.4%減、2.3%減。輸出はマシニングセンタは3.0%減、NC旋盤は7.8%増となった。高い水準の中で販売、輸出がどう動くのか注目される。

## コンプライアンスと企業風土

UFJセントラルリース㈱  
機械営業部長  
岡本直人

- ・ 企業の不祥事が相次いで表面化している。「ずさんな品質管理で世間を騒がせた洋菓子メーカー」や「死亡事故を隠蔽してきたガス機器メーカー」、「相変わらず談合を続けていたスーパーゼネコン」、「粉飾決算で糾弾されている大手証券会社」などなど。特に深刻なのは、不祥事を起こした企業が経営の範たるべき老舗の大企業であることだ。加えて、トップが問題発覚後に『担当者の行ったことで私は知らなかった』と自己弁護あるいは責任逃れともとれる発言をし、世間から非難されている。こうした経営者の発言はもってのほかであるが、これを他山の石とし、改めて自らの組織を検証すべきではないだろうか。
- ・ 企業経営の一番の課題がゴーイングコンサーン(企業の永遠の存続)にあることは誰も否定しないだろう。コンプライアンス(以下CPとする)遵守はそのための最も大切な事項である。これを軽視した場合は、即「存続の危機」に直結することは多くの事例が物語っている。問題を起こした企業も重々承知のはずで、敢えてCPを軽視してきたわけではないだろう。マニュアルを完備し、社員教育も実施され、内部監査制度も十分充実していたことと思う。ではなぜ、不祥事が起きたのか？ 私なりに思うことは、CP遵守の指示・指導が実質を伴わず、形骸化してしまっていたのではないだろうか。
- ・ 近年、企業環境が激変し、経営者は市場の評価(=企業収益力)にとみに敏感に反応するようになった。このため多くの企業で「収益目標必達」を最重要課題とし、社員に対しても「成果主義を重視した評価制度」を積極的に導入している。しかし、これは行き過ぎると彼らに過度な重圧感を課してしまい、彼らがCP上懸念されるような事例に直面した場合にも、目先の利益に惑わされ「これくらいなら許されるだろう」とか「この程度なら誰も分からないだろう」といったCP軽視の判断を優先させる危険性がある。この点を経営者はよく理解する必要がある。
- ・ CP遵守は、規定・マニュアルの整備や社内監査の強化だけでは実現しない。社員一人一人がCPの重要性を認識することが大切で、このためにはトップ自らがこの重要性を社員に訴えることも必要だろうし、部課長クラスも常にこの点を念頭に部下教育や指導を行うような仕組みづくりも肝要だ。しかしそれ以上に重要なことは、社員の「モラル」や「バランス感覚」、「健全な意識」を育む風土づくりで、問題が生じた場合にはすぐそれが上層部に伝わるような「風通しのいい組織風土」の醸成が大切と考える。
- ・ サラリーマンのたむろする居酒屋は大好きだが、隣の席で平社員らしき人が『こんなことやってたら会社はダメになっちゃうよなー』といった愚痴をよく耳にする。こうした平社員の愚痴を汲み上げられる風土づくりが、今一番求められていると思うのだが。

## 行事予定

中部地区懇談会	3月19日(月)	サンコー商事(株)会議室
調査広報委員会	4月24日(火)	機械工具会館
政策委員会	5月9日(水)	名古屋/安保ホール
定例理事会	5月9日(水)	名古屋/安保ホール
西部地区懇親ゴルフ会	5月22日(火)	西宮高原ゴルフ倶楽部
東部地区工場見学会	5月29日(火)	(株)ニッセー、榎本機工(株)
展示会		
微細精密加工技術展2007	平成19年5月23日(水)~26日(土)	インテックス大阪
2007自動車部品生産システム展	平成19年6月13日(水)~16日(土)	東京ビッグサイト
EMOハノーバー2007	平成19年9月17日(月)~22日(土)	ドイツ・ハノーバー
メカトロテックジャパン2007	平成19年10月17日(水)~20日(土)	ポートメッセなごや

## 編集後記

内閣府の発表による速報ベースでの平成18年10~12月期の実質GDP成長率は前期比1.2%、年率4.8%で、この結果平成18年暦年の実質GDP成長率は2.2%になるとのことです。個人消費は横這いで推移していますが、企業の設備投資の増加基調に変化はないとのことで、平成19年1~3月期以降も緩やかな成長を続けるものと見られ、今後も年率2%前後の成長が見込まれそうです。

日銀は1月に見送った金利引き上げを2月21日に決定し、短期誘導金利を0.5%に引き上げました。対ドル円レートは一時120円を割っていましたが、日米間の金利差は当分縮まらないと見る安心感から再び円安に振れ120円を超え一時121円台に入り、株価も利上げにもかかわらず円安に振れていることから安心感が広がり一端は2000年5月以来の18,000円超えとなりました。然しその後、2月末の上海株式市場の大幅下落に端を発した世界連鎖株安と米国経済の先行き不安から日経平均は急落し17,000円を割り込み、対ドル円レートも115~116円台へとドル安が進みました。

日工会の1月受注統計は総額1,199億円で前年同月比5.7%増と先月のマイナスから再びプラスに転じました。外需は依然として堅調で欧州・北米・アジア3地域とも上昇し、前年同月比21.0%増となり、前月に次ぐ史上2番目の642億円を計上しました。然し内需の減少は更に進み全年同月比7.2%減の557億円となりました。市場別では一般機械向けが減少し、自動車部品向けの底堅さはあるものの、完成車向けはピークの半分となっています。

今月の巻頭言に宮脇機械プラント(株)の宮脇社長より「信頼と感動のブランドをつくりたい。」のご寄稿を掲載いたしました。差別化の時代において販売商社として独自のブランド、それも顧客から信頼され、感動を与えるブランドが確立できれば、大変素晴らしいことだと感じるとともに、そういう販売商社の活躍する業界であって欲しいと願うばかりです。

今年は全国的に暖冬で、遂に東京は降雪なしの日記録を更新中です。桜の開花も相当早そうで、このまま本格的な春を迎えそうです。冬物商戦が不発に終わり、一般消費が盛り上がり欠けたきらいがあります。山岳地での降雪量が少ないため、夏場の水不足が心配ですが、それよりも今回の金利引き上げが、先行きの景気に水をささないか気になるところです。

「日工販ニュース」 Vol.19 - No.3

平成19年3月15日発行

発行 日本工作機械販売協会  
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階  
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 荘司 博章  
編集 日工販調査広報委員会  
委員長 田尻 哲男

# 日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (50音順)

平成19年3月1日現在

## 正会員(全72社)

### [ 東部地区(36社) ]

(株) 旭 商 工 社  
 伊藤忠メカトロニクス(株)  
 今井機械工業(株)  
 (株) エムエムケー  
 大石機械(株)  
 (株) カナデン  
 (株) カネコ・コーポレーション  
 (株) 兼松 K G K  
 (株) 京 二  
 (株) 共 和 工 機  
 群馬工機(株)  
 (株) 国 興 會  
 (株) 三 機 商 會  
 三洋マシン(株)  
 サンワ産業(株)  
 シマモト技研(株)  
 住友商事マシネックス(株)  
 (株) セイロジャパン  
 誠和エンジニアリング(株)  
 太平興業(株)  
 (株) 高橋機械  
 帝通エンジニアリング(株)  
 (株) テ ヅ カ  
 (株) トーメンテクノソリューションズ  
 常盤産業(株)  
 トッキ・インダストリーズ(株)  
 独協機械(株)  
 (株) ト ミ タ  
 (株) N a I T O  
 日鋼商事(株)  
 藤田総合機器(株)  
 松茂工販(株)  
 三菱商事テクノス(株)  
 (株) ヤマモリ  
 ユアサ商事(株)  
 米沢工機(株)

### [ 中部地区(20社) ]

石原商事(株)  
 (株) 井 高  
 岡谷機販(株)  
 カト一機械(株)  
 釜屋(株)  
 岐阜機械商事(株)  
 甲信商事(株)  
 三栄商事(株)  
 三機商事(株)  
 サンコー商事(株)  
 三立興産(株)  
 下野機械(株)

(株) 大 成  
 (株) 大 誠  
 (株) 東 陽  
 (株) 日 本 精 機 商 會  
 浜松貿易(株)  
 (株) 不 二  
 山下機械(株)  
 ワシノ商事(株)

### [ 西部地区(16社) ]

赤澤機械(株)  
 伊吹産業(株)  
 植田機械(株)  
 (株) お じ ま  
 関西機械(株)  
 京華産業(株)  
 五誠機械産業(株)  
 桜井機械(株)  
 (株) ジ ー ネ ッ ト  
 大幸産業(株)  
 (株) 立花エレテック  
 西川産業(株)  
 日本産商(株)  
 マルカキカイ(株)  
 宮脇機械プラント(株)  
 (株) 山 善

## 賛助会員(全73社)

### [ 製造業(53社) ]

(株) エ グ ロ  
 S M C (株)  
 エヌティーツール(株)  
 エンシュウ(株)  
 オーエスジー(株)  
 オークマ(株)  
 大阪機工(株)  
 (株) 岡本工作機械製作所  
 (株) 神崎高級工機製作所  
 (株) 北川鉄工所  
 キタムラ機械(株)  
 キャンタス(株)  
 京セラ(株)  
 (株) グラフィックプロダクツ  
 黒田精工(株)  
 (株) ジェイテクト  
 (株) シギヤ精機製作所  
 新日本工機(株)  
 住友電工ハードメタル(株)  
 (株) ソディック  
 大昭和精機(株)  
 高松機械工業(株)  
 (株) 滝澤鉄工所

(株) ツ ガ ミ  
 津田駒工業(株)  
 (株) テクノワシノ  
 (株) 東 京 精 密  
 東芝機械マシナリー(株)  
 東洋精機工業(株)  
 (株) ナガセインテグレックス  
 中村留精密工業(株)  
 (株) 日研工作所  
 (株) 日平トヤマ  
 野村精機(株)  
 浜井産業(株)  
 日立ツール(株)  
 ファナック(株)  
 富士機械製造(株)  
 ブラザー販売(株)  
 豊和工業(株)  
 牧野フライス精機(株)  
 (株) 牧野フライス製作所  
 (株) 松浦機械製作所  
 三井精機工業(株)  
 (株) ミ ツ ト ヨ  
 三菱重工(株)  
 三菱電機(株)  
 三菱マテリアルツールズ(株)  
 (株) ミ ヤ ノ  
 メルダシステムエンジニアリング(株)  
 (株) 森精機製作所  
 安田工業(株)  
 ヤマザキマザック(株)

### [ リース業(20社) ]

N T T ファイナンス(株)  
 協同リース(株)  
 共友リース(株)  
 近畿総合リース(株)  
 興銀リース(株)  
 首都圏リース(株)  
 昭和リース(株)  
 GEキャピタルリーシング(株)  
 住商リース(株)  
 ダイアモンドリース(株)  
 東京リース(株)  
 東銀リース(株)  
 東芝ファイナンス(株)  
 日本機械リース販売(株)  
 日立キャピタル(株)  
 (株) 芙蓉リース販売  
 三井住友銀リース(株)  
 三井リース事業(株)  
 三菱電機クレジット(株)  
 U F J セントラルリース(株)